

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873700383
法人名	医療法人社団みのり会
事業所名	グループホームまほろば
所在地	愛媛県西予市三瓶町朝立2-1-7
自己評価作成日	平成27年10月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

本人のペースで生活して頂けるように配慮し、そのうえで出来る事はして頂き、本人が役割を持って生活できるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 気候のよい時期には、頻繁に散歩に出かけており、近所の方がよく声をかけてくれる。近所の児童館で毎週木曜日に駄菓子屋が開かれ、利用者も時々、お菓子を買に行き、日々の利用者との会話の中で季節に応じたお花の話題等も挙がり、出かけるきっかけになっている。近くの文化会館に図書を借りに行かれる方もある。
- 利用者、職員ともに地元の方が多く、もともと顔見知りの方もいる。併設デイサービスの利用者の中には、近所の方や知り合いもいるため、体操等を一緒にできるようお連れしている。
- 年1回、運営推進会議と家族会を併せて行い、意見交換してお互いの気付きを出してもらう機会を作っている。職員の入れ替わりが少ないため、利用者ご家族の関係は深まっている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

グループホームまほろば

(ユニット名)

東ユニット

記入者(管理者)

氏 名

松本 和明

評価完了日

平成27年 10月21日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○ 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			理念を新しく掲げ、入居者が来てよかったと思て頂けるよう に、皆が良いサービスを提供できるように取り組んでいる。	
			(外部評価)	
2	2	○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)	
			回覧板が回ってきた際には、一緒に回しに行ったり、参加で きる行事は参加させていただいている。ボランティアは積極 的に受け入れている。	
			(外部評価)	
3		○ 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)	
			高齢者のいろいろな問題、悩み、ご家族、地域の方の悩み に相談できるようにしている。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			会議での話し合いや意見を取り入れて、サービスの向上に努めている。	
			(外部評価)	
			市担当者からのアドバイスもあり、会議メンバーを固定し、2年任期と決めている。メンバー交代の時期には、認知症についての研修と会議開催についての説明している。会議時には、事業所側から指名等して、意見を出してもらおうよう取り組んでいる。	グループホームの特徴をさらに知ってもらえるような会議の工夫や、意見等を引き出せるような工夫を重ねてほしい。又、会議を活かして地域との関係をさらに深めてほしい。
5	4	○ 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
			運営推進会議等で、話をし、助言を頂くようにしている。	
			(外部評価)	
			市の担当者は、運営推進会議に参加しており、取組みについて助言等がある。管理者は、市の担当者に地域に向けて「認知症介護教室を開催したい」と提案したが、予算や計画のこともあり、すぐには難しいとの返答であった。	
6	5	○ 身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			意識してケアを行っている。業務の中での話し合いで再確認している。安全の為、やむをえない場合は、必ず家族の同意を得ている。	
			(外部評価)	
			ユニットの出入り口には鈴を付けており、人の出入りが職員に分かるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 話題になったことがあれば話し合いを行い、お互いが注意するよう努めている。	
8		○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 法人内の勉強会で学んでいるが、実際には対応したことはない。	
9		○ 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項、運営方針などの説明を充分し、納得していただき同意を得ている。また、不安なことなどないか確認を行っている。	
10	6	○ 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎月の手紙や面会の際、要望等ないか聞くようにしている。入居者については、困ったことがないか注意して接するようにしている。 (外部評価) 毎月、暮らしの様子を書いた手紙と、行事の写真を載せた便りをご家族に送付している。年1回、運営推進会議と家族会を併せて行い、意見交換してお互いの気付きを出してもらう機会を作っている。職員の入れ替わりが少ないため、利用者のご家族の関係は深まっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見 や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			スタッフミーティングで意見や提案を聞く場を設け、運営に反映している。	
			(外部評価)	
			月1回のカンファレンス時には、職員から「レベルが落ちてきた利用者を地元に戻らせてあげたい」と提案があり、ユニット全員で利用者の地元に出かけられるよう支援した事例がある。利用者の方は、知人と会うこともできて懐かしい時間を過ごされた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			面接を行い、職員が困っていること、不満に思っていることがないかを話せる機会を設けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			外部の研修や法人内での研修に参加をしたり、また資格の取得への支援を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			研修等で他のグループホームの方との交流を深めるようにしている。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			事前に家族や相談員から情報を得たり、入居初期に本人と積極的に話したり、接することで、信頼関係の構築に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用に先立ち家族の心配や要望を聞き、話し合い、時にはホームの見学や雰囲気を見ていただくようにしている。	
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談内容をよく聞き、本人が必要としているサービスにつながるように努めている。	
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 調理や洗濯物たたみ等の手伝いをして頂き、お互いにありがとうを言い合える関係を築けるよう努めている。	
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月のお便りでホームでの現在の状態をお知らせしている。また、本人からの要望を伝えたりしてお互いの想いに配慮しながらよりよい信頼関係を築いている。	
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人、友人の方の面会時には、時間をきにせず、居室やリビングでゆっくり過して頂けるよう支援している。 (外部評価) 利用者、職員ともに地元の方が多く、もともと顔見知りの方もいる。併設デイサービスの利用者の中には、近所の方や知り合いもいるため、体操等を一緒にできるようお連れしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者の性格や行動を理解し、お互いに話しやすい環境を作り、調理や洗濯物たたみ等を通じて連帯感が生まれるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院等で、他施設に移った場合でも、入居者と共にお見舞いや面会に行く等して、よりよい関係を維持できるように努めている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプラン作成時には、必ず入居者の希望を聞くようにしている。自分の意見を表現することが難しい方には、行動や言葉から把握し、支援している。	
			(外部評価) 入居時には、ご本人、ご家族、又、ケアマネジャー等に、これまでの生活歴や状況を聞き取っている。利用者から意見や不満等を聞いた時には、内容を申し送りノートに記入して職員で共有している。	利用者がその人らしい暮らしを続けることができるように、意思表示が難しいような方についても、情報収集に努めてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居者、家族との会話のなかで、生活環境の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の暮らしの中で生活リズムを把握し、食事、排泄、バイタルチェック等で心身の状態把握、理解に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			入居者ごとに担当職員を配置しその人を中心として、本人、家族の意向をふまえ、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。	
			(外部評価)	
			介護計画は、毎月のカンファレンス時にモニタリングを行い、半年ごとに見直しており、状態変化時には随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			入居者の日中帯、夜間帯の様子を記録すると共に、特記事項は記録をとり、申し送り等で職員間の情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			看護師の訪問による健康管理、個別での体操や散歩などを行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			ボランティアの参加、消防の訓練など必要に応じ、入居者も参加している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○ かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 法人内の病院ではかかりつけ医師がおりいつでも連絡が取れる体制にしている。家族の希望によっては他の病院、歯科医の訪問往診等、適切な治療を受けられるように支援している。	
			(外部評価) 夜間や緊急時には、隣接する母体医療機関に連絡すると看護師が駆けつけてくれて状況判断し、医師に報告してくれるようになっている。町外の病院を受診する際には、ご家族が付き添うが、ご家族の都合によっては管理者が同行し支援している。	
31		○ 看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 訪問看護ステーションの訪問の際には、状態変化をきちんと伝えると共に、適切な助言を受けている。	
			(外部評価)	
32		○ 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には利用者の状態を正確に伝え、日々の様子を確認しつつ、関係者や家族との情報交換や相談に努め、早期に退院できるように連携している。	
			(外部評価)	
33	12	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合でも、家族等の意向を聴き、医療関係との連携を図りつつ、必要な医療、介護が提供できるようにしている。	
			(外部評価) 法人全体でターミナルについての研修を実施しており、職員も受講している。利用者との会話の中から「最期までここで暮らしたい」等と希望を聞くこともあるが、終末期には、ご家族、利用者ともに、病院への入院を希望することが多い。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時に応急手当で対応ができるようマニュアルを作成している。	
35	13	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に二回の避難訓練を実施し、特に、夜間帯での訓練を中心に夜勤者2人で対応する訓練を行っている。また、法人内の近隣住民の協力体制も組織化している。 (外部評価) 年2回、消防署の協力を得て夜間想定で避難訓練を実施しており、全職員が体験できるよう取り組んでいる。利用者役を体験した職員は、声を掛け合うことの大切さを感じていた。津波発生時には、隣接する病院の4階を避難場所にしており備蓄もある。地区には防災組織があるが、現在は、事業所がかかわるようなことは少ない。今後さらに地域との協力体制作りに向けて、具体的に取り組みをすすめてほしい。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○ 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自尊心やプライバシーを損なう言動に配慮し、利用者一人一人に穏やかな声かけをし、人格を尊重する対応をしている。 (外部評価) 利用者の居室にいきなり入ることのないよう、職員は利用者に声をかけてから開けるように気を付けている。トイレ使用时には、外で待ち、タイミングをみながら声を掛けて対応している。訪問調査時、耳の聞こえにくい利用者も番組を楽しめるよう、字幕入りにしていた。	
37		○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話の中で本人の思いや希望がないかを聞き取り、ある時には傾聴して自己決定ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者一人一人の生活リズムに気を配りながら、本人のペースで本人がしたいことができるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎月一回は美容師が訪問カットに来られている。入浴の際には一緒に服を選んだりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理の下準備等は入居者と会話をしながら一緒に行っている。誕生日には、本人の希望があれば食べたいものを提供できるようにしている。 (外部評価) 朝・昼食は業者から食材が届き、事業所で調理している。夕食は、病院の厨房で作った食事が届くようになっている。調査訪問時には、ご自分のお膳を下げて流しで食器を洗っている利用者が複数いた。職員は、介助に徹しており、飲み込みが悪い利用者の様子を見て、夕食から少し刻んでみることを話し合っていた。職員は、順番に別の場所で持参したお弁当を食べて休憩を取っている。	食事を楽しむという観点から、職員のかかわり方に工夫できることはないか話し合ってみてほしい。利用者のリクエストや好み、懐かしいようなメニュー等も楽しめるよう工夫してはどうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士による栄養のバランスのとれた食事になっている。食事摂取量をチェックし、水分の摂取量が確保できているか等職員同士で情報を共有し対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に、一人一人の能力に合わせ、見守り、一部介助にて口腔ケアを行っている。週一回義歯専用剤にて消毒している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			チェック表にて排泄パターンを記録、把握し、トイレの間隔があいているときにはさりげなく声かけし気持ちよく排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			職員が介助することを嫌がる利用者やトイレに行きたがらない利用者には、思い出の写真を一緒に見る等しながら誘導するきっかけを作り、トイレに行けるように支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			一週間に三回の入浴を実施している。基本の曜日は決めているが本人の入りたい時間で入浴できるようにしている。また、便失禁で入浴しなければならない時などは時間に関係なくいつでも入れるよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			東と西ユニットの間に浴室が2つ設置されており、その内一つはリフト浴もできる特殊浴槽になっている。それぞれのユニットが交代で使用して、利用者は週3回入浴できるよう支援している。以前は夜間入浴希望者があり、人員を配置して支援していたが、最近は希望者がいないため昼間の入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			入居者の体調に合わせ、日中休息ができるようにしている。生活のリズムを整え安眠できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員が管理しており、毎食前後に一人一人名前、日付を確認しながら服薬介助している。薬による症状の変化等を記録し情報を共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の生活の中で、本人の趣味や楽しみ、特技等を見出しそれを活かしたそれぞれに合った支援ができるよう心掛けている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 施設周辺を散歩したり、季節によっては遠出をしたり、希望があれば自宅まで帰ってみたりしている。 (外部評価) 気候のよい時期には、頻繁に散歩に出かけており、近所の方がよく声をかけてくれる。近所の児童館で毎週木曜日に駄菓子屋が開かれ、利用者も時々、お菓子を買いに行く。日々の利用者との会話の中で季節に応じたお花の話題等も挙がり、出かけるきっかけになっている。近くの文化会館に図書を借りに行かれる方もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一緒に買い物に行き、自分で買われることもあり、個々にあわせて管理、支援をしている	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話はいつでも利用者の希望で自由に使用できるようにしている。また、会話が円滑に進むように職員が中に入るなどして対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			室内を親しみやすく、写真等飾ったりして暖かい雰囲気になる空間を作れるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(外部評価)	
			アイランド型台所で、利用者が食事作りにかかわりやすい造りになっている。テレビの前にはソファが配置されており、昼食後にはソファに座って洗濯物をたたんだりコタツカバーを編んでいる利用者の様子もみられた。	玄関は、併設デイサービスや疾病予防運動施設と共有になっているが、利用者にとっては、親しみやすく安心できるような玄関の環境になっているだろうか。この機会を活かして、利用者の立場に立って点検してみてもはどうだろうか。
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			自分が慣れ親しんだ物をいつでも持ってきていただけるようにし、居心地良く生活できるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(外部評価)	
			居室にはそれぞれに名前を記しており、自室が分かりにくい方には大きく表示してあった。各居室には、タンスや転倒防止のため低めのベッドが設置されている。テレビや三段ボックス、簾の飾り棚を持ち込んでいたり、写真や手作り品等が飾ってあった。利用者の中には冷蔵庫や携帯電話を使用する方もある。	
55			(自己評価)	
			手すりを設置したり、余計なものは置かず、安全確保に努めつつ自立した生活が送れるように支援している。	